

平成24年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめ

1 年間テーマ 「県民が心豊かに生きるための学習機会の充実 ～学習の在り方と機会の提供～」

2 会議の経過

- | | | |
|-----|---------------|------------------------------------|
| 第1回 | 平成24年 7月6日(金) | ・働いている世代の学習と学習機会の提供 |
| 第2回 | 平成24年10月1日(月) | ・仕事を終えた世代の学習と学習機会の提供 |
| 第3回 | 平成24年11月1日(木) | ・学校教育を受けている世代の学習と学習機会の提供(学校外で行う学習) |
| 第4回 | 平成25年2月21日(木) | ・協議のまとめ |

3 協議のまとめ

学校教育を受けている世代にとっての学びは、「自分の可能性をより広げるためのもの」である。この世代は、学校やスポーツ少年団、学習塾など活動範囲が限定されている場合が多く、交流する対象も限られがちである。このことは当該世代が本来持っている成長・発達の可能性を狭めることになりかねない。そこで、児童・生徒・学生らの対象世界を拡げるためにも、学校外において様々な人々と出会い、自然体験や奉仕体験をつむ機会を提供することが必要と考える。

働いている世代にとっての学びは、「自分をより高めるためのもの」である。この世代は、おおむね、仕事を持ち、子育てをしている世代であり、学習のための時間を確保しにくい状況にある。しかし、自分自身の仕事に役立つことを学ぶことも、自己の充実のための学びも、十分生涯学習と言えるものであり、学習のための時間や場の設定を工夫することが必要となる。また、職場以外の人とのネットワークは、新たな学習意欲を生み出し、その人が持っている能力をさらに高めることが多く、その点からPTAや町内会等で活動することも新たなつながりや絆を生む貴重な学習機会となる。

子育てについては、核家族世帯が多くなっている現代、悩みを持っている人も多く、子育ての支援に資する学びの機会を設けることが必要と考える。

仕事を終えた世代の学びは、「自分の人生をより充実させるためのもの」である。この世代は、自分自身のために使える時間が豊富にある世代であり、その時間を生き甲斐をもって過ごすことが大切である。学習意欲はいくつになってもあるものであり、学ぶことや教えること、学びを通して仲間と触れあうことが生き甲斐となり得る。そこで、公民館等の身近なところで学習機会を提供したり、あるいは齢を重ねて形成してきた学びの成果を社会のために発揮することができるような場の提供も重要である。

今日、学習に対する県民の潜在的な要求に、十分応えられていない状況にあることは否めないが、県民が心豊かに生きるための学習機会の充実を図るには、それぞれのライフステージに応じた学習機会を提供するとともに、情報発信の方法についても検討していくことが求められている。また、どの世代においても学びを通して他者とかがかわることが、学習をより充実・深化させることに鑑み、今後とも、ライフステージに応じた学習の在り方と機会の提供については、その充実が図られることが大切である。